

大沢地区

第4号

田園まちづくりニュース

まちの課題を「夢マップ」にまとめました

10月21日（日）の「第3回まちづくり協議会」と12月2日（日）の「第4回まちづくり協議会」にて、大沢の将来に向けたまちづくりの課題について話し合い、その結果を「夢マップ」としてまとめました。

大沢地区住民 36 人（2 回の会合の合計）のほか、市役所職員、コンサルタントが参加しました。

このニュースの裏面に掲載して皆さんにお知らせします。誌面の都合上、文字が小さく見づらいですがご容赦ください。



【今後のまちづくり(構想)についても、意見交換をしています】

●里山の管理、活用について

- 山、森林の活用について、村の所有の山（財産区の山）のほか、個人所有の山を活用するなら里山を貸し出してもらうなどが必要になるのでは。
- 里山の活用については、行常地区の「森フェス」などの動きと連携してはどうか。
- 里山の活用が進めばイノシシなど鳥獣害対策にもなるかもしれない。あわせて集落に近接する森林を帯状に間伐できないか。

●公共交通について

- 今は自家用車で何とかできるが、将来的に高齢者が増えれば免許返納も増えて、かこバスやかこタクシーのような公共交通が重要になると思う。
- 大きな病院につなげて欲しい。
- 利用者が少ない。みんなで乗るようにしないと。

●空き家、空き地対策について

- 空き家を活用するのは良いが、家屋だけ別の利用者が決まっても農地や里山だけが放置される危険もあるのでは。
- 農業をやりたい移住者には「住宅＋農地」がセットで購入できるような制度が必要では。
- 農業はしないが自然の中で暮らしたい・子育てしたいという人は、田園まちづくり制度で「住宅・宅地だけ」を購入できる。

●取組の具体化の展望について

- 里山の活用や散策道の整備など、整備の後の管理運営がやっていけるか。人手が少なくなっていく中であれもこれもは出来ない。
- 何もしないと人も来てくれないので、人を呼ぶような取組を何かしていかないと。

次回の協議会は…

年明けの2月10日(日)9時～、公会堂です。

まちづくりの方針や構想について考え、案を固めていきます。ふるってご参加を！



よいお年を
お迎えください

お問い合わせ

まちづくり協議会会長

まで（電話：

）

大沢地区 まちづくりマップ(課題整理図)

【集落の生活環境について】

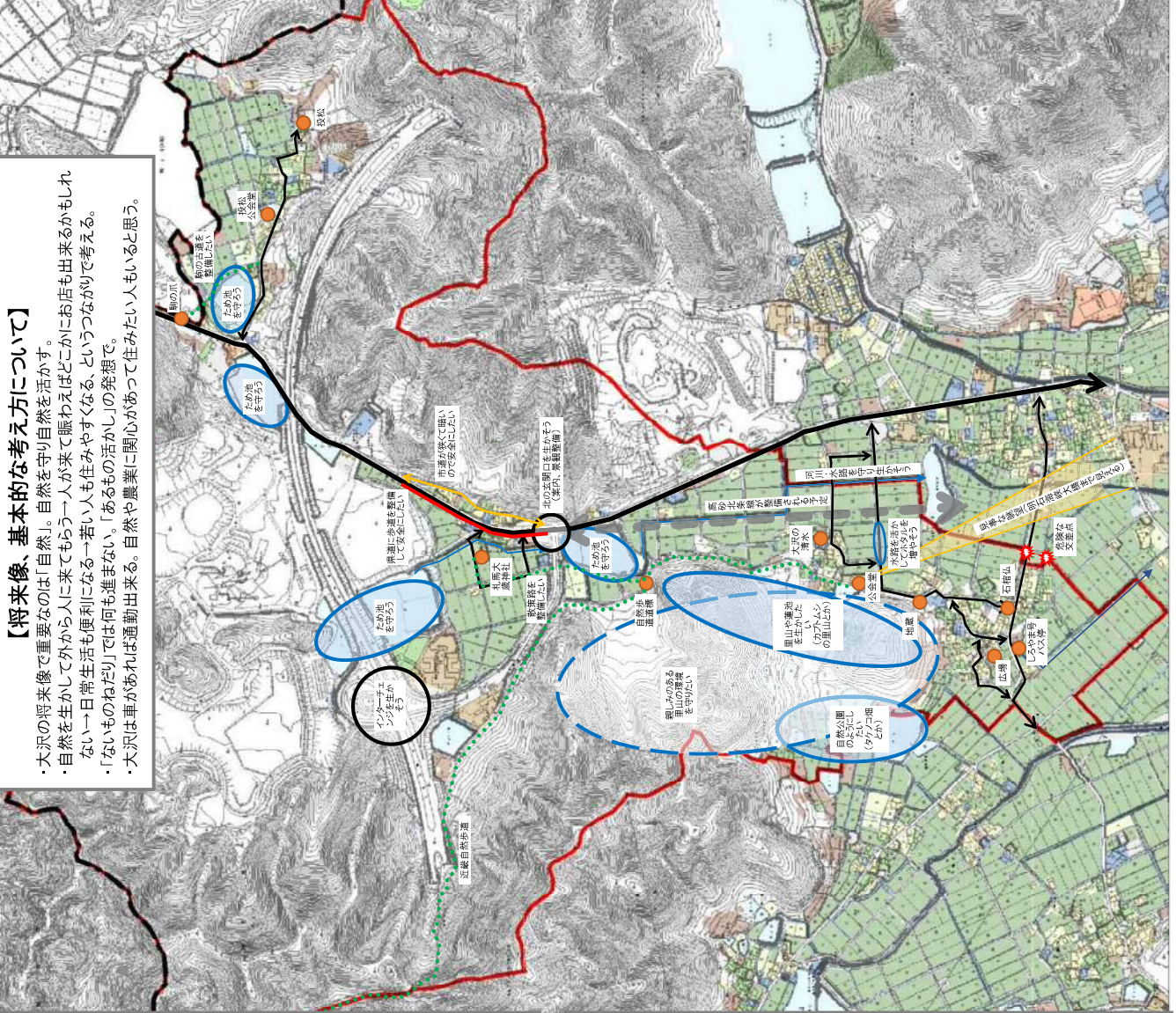
- ①道路
 - ・生活道路が狭いので整備が必要。
- ②住宅
 - ・自分の農地であっても簡単には農地転用が認められず家が建てられない。1~2年かかる場合もあると聞く。若い人が出て行く一因になっている。
- ③下水処理
 - ・下水道は整備区域外になった。衛生面では劣る。
 - ・下水道に比べて合併処理浄化槽は臭いが気になる。街から来る若い人(特に女性)はトイレが浄化槽というだけで拒否反応がある。
- ④空き家
 - ・空き家を改修して飲食店などとして利用してはどうか。
 - ・空き家であっても、土地と権利者が違う場合や、所有者が不明の場合などがあり、簡単に活用や潰すこともできないなど、問題ありの空き家もある。
 - ・空き家は増えていると思うが、まだ危険空き家までは至っていない。
- ⑤空き地
 - ・宅地の跡地がソーラーパネル置き場になった。今後増えていくのか不安。

【公共施設について】

- ①道路、交通安全
 - ・県道を迂回する通過交通により交通上の危険がある。交通規制なども必要では。(地区外のため参考：県道の「志方東小学校東交差点」付近の弧幅や右折レーン設置など、県と市に頑張ってもらいたい。)
 - ・県道富砂北条線に歩道が無い部分がある。高橋生の通学路なので危険。大型車が増えているので危険。
 - ・札馬には県道に沿って山側に市道があるが、山中にあるので暗くて舗装も悪く通るのが怖い。
- ②自然歩道
 - ・かぶら谷から観音堂周辺の道路(自然歩道)が荒れ放題。整備して遊歩道にしてはどうか。ハイカーなどが訪れるようになるのでは。
 - ・法華山までの遊歩道を整備してはどうか。歩けば健康にも良い。
- ③防火用水
 - ・自宅敷地の一角に防火用水を設置している。敷地利用に制約がある今後30年という子どもにも引き継ぐことになるので負担感はある。
- ④公園、子どもの遊び場
 - ・子どもの遊び場は無いが、子ども自体がいらないので、あまり問題ではない。
 - ・そもそも子どもがいらないことが問題。

【将来像、基本的な考え方について】

- ・大沢の将来像で重要なのは「自然」。自然を守り自然を活かす。
- ・自然を生かして外から人に来たらうー人が来て賑わえばここにのお店も出来るかもしれないー→日常生活も便利になる→若い人も住みやすくなる、というつながりを考える。
- ・「ないものねだり」では何も進まない。「あるもの活かし」の発想で。
- ・大沢は車がなければ通勤出来る。自然や農業に関心があった住みたい人もいると思う。



【農地、農業基盤について】

- ①農道
 - ・かぶら谷の東側の農道を舗装して欲しい(現状は砂利道)。
 - ・農道の交通安全のため規制も必要。
- ②担い手
 - ・営農組合も高齢化してきた。そのうち放棄田が増えてくる心配。

【自然を活かす取組について】

- ①里山の活用
 - ・里山を整備して、たけのこ、カブトムシなどが採れる楽しい里山にしよう。夏はカブトムシ、春はホテルで売り出そう。
 - ・外から行業客も来るのではないか。
 - ・自然を生かした体験で人を呼ぶのもいいが、自分たち自身が楽しみながら取り組むことが大事。義務感だけではいらない。
 - ・自然体験の楽しいメニューを用意して人にもって来られて、大沢の良さを感じてもらうのが入り口。
- ②景観づくり
 - ・かぶら谷の山の斜面にヤマザクラやヤブツジなどを植えて美しい山の景観を作ってほしい。山陽自動車道を通る車から見て名所になるのでは。
 - ③将来の居住につなげる
 - ・いきなり「住んで」は難しいから、自然の良さや住みやすさを分かってくらってから、徐々に空き家を使った宿泊体験とかお試し居住などにつなげていこう。

【その他】

- ①インターチェンジを生かすことについて
 - ・インターチェンジが出来る当初は「車人もたくさん来る」という話だったが、今ではそうでもない。インターチェンジがあると人は広域から来やすいので、インターチェンジを村の元気づくりに使いたい。
 - ・工業系や物流系の利用を増やす方向性ではない。
- ②コミュニティ
 - ・大沢は範囲が広く、大沢の中も3つの部落(本村、札馬、投松)に分かれていて、元々はバラバラだった。自治会は一つで子ども会も子どもが減って一つになったので、最近は付き合いが広がっている。